

倉敷室内管弦楽団

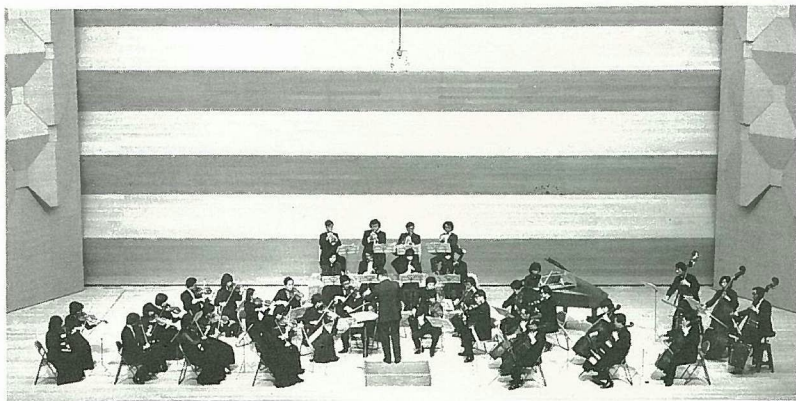
第4回 定期演奏会



'78 12月10日(日) 14:00~16:00

倉敷市民会館

主催 / 倉敷市・倉敷市教育委員会・倉敷市自主文化事業協会・倉敷市文化連盟・倉敷室内管弦楽団
後援 / NHK岡山放送局・山陽放送・岡山放送



第3回定期演奏会より

ごあいさつ

倉敷室内管弦楽団

団長 小山 裕 章

倉敷室内管弦楽団の第4回定期演奏会において下さいまして、大変ありがとうございます。この楽団が誕生してから4年、定期演奏会も4回を数え、本年も大原総一郎追悼演奏会、ゴールドブレインド・コンサートなどに出演、演奏活動も年と共に活発になって参りました。

この秋、私は西ドイツの音楽事情を視察して参りましたが、その折、ドイツのセミプロ的なオーケストラを聞く機会を得ました。このオーケストラはミュンヘンを中心とし、音楽学校の先生達で作られ、倉敷室内管弦楽団と同じような性格のオーケストラですが、私はその演奏を聞いて大変意を強くしました。それはこのオーケストラと比較して倉敷室内管弦楽団の演奏は決して遜色のないものだったからです。しかし、一般の芸術への理解度と、それに伴う公的な援助は日本とは比較にならない程の差があります。倉敷のオーケストラを育てるためにも、各方面のご援助をお願いします。

本日は、ピアノに深沢亮子さんを迎え、団員一同、張り切っておりますので、皆様のご期待に答える演奏ができるものと思います。最後までご声援下さいますようお願いいたします。

プログラム

シンプル・シンフォニー 作品4 プリトゥン

- 第1楽章 「騒々しいブーレー」
- 第2楽章 「陽気なピッツィカート」
- 第3楽章 「感傷的なサラバンド」
- 第4楽章 「浮されたフィナーレ」

二つのヴァイオリンの為の協奏曲 二短調 BWV-1043 J.S.バッハ

- 第1楽章 ヴィヴァーチェ 1st Vn 守 屋 美枝子
- 第2楽章 ラルゴ・マ・ノン・タント 2nd Vn 中 川 衛 子
- 第3楽章 アレグロ

————— 休 憩 —————

交響曲第38番 二長調 K.504〈プラーハ〉 モーツァルト

- 第1楽章 アダージョーアレグロ
- 第2楽章 アンダンテ
- 第3楽章 プレスト

ピアノ協奏曲第20番 二短調 K.466 モーツァルト

- 第1楽章 アレグロ
- 第2楽章 ロマンツェ Piano 深 沢 亮 子
- 第3楽章 ロンド・アレグロ・アッサイ

指 揮 菊 池 東
演 奏 倉敷室内管弦楽団

曲目ノート

❖ シンプルシンフォニー 作品4 ブリトゥン

この曲の譜面を開くと、「シンプル・シンフォニー」は、作曲家が9才から12才までの間に書いた作品をベースにして、云々。」なんて、ブリテン自身のノートがあるのだが、これはなかなかどうして大した心臓だというか、特に我々みたいに、いいトシしてその譜面を音にしている者にすれば、もうちょっとなんかごあいさつのしようがあるんじゃないかという気になる。それに、確かにスタイルは簡単だし楽器も弦楽だけだけど、それだけに、いい加減に弾くとすぐボロが出る。「シンプルシンフォニー」は、別にイー

ジーシンフォニーじゃないんだよ。」とって、ブリテン先生、どっかでニヤッと笑っているのかもしれない。イギリス人てのは、あまり先鋭じゃなくても、どうしてやっぱりしたたかなものなんだなと思ったりする。各楽章には、「騒々しいブルー」とか「陽気なピチカート」さらに「センチメンタルなサラバンド」「浮かれたフィナーレ」などと題名がついているのだが、これもやっぱり皮肉まじりのヒューモアというものじゃないだろうか。

(Va 室)

❖ 二つのヴァイオリンの為の協奏曲 二短調 J. S. バッハ

バッハの協奏曲の中でもとりわけ有名なこの曲は、二つのVnが極めて精巧なポリフォニーで、力強い迫力と比類ない美しさで、常に聴く者の心を奪わずにはおかない曲です。

ヴァイオリンを習い始めた小さい頃、何回もこの曲の一楽章を演奏したのですが、今日は全楽章オーケストラの伴奏で思う存分弾けて満足です。この曲は二人のヴァイオリンニストに

よる共演とあって、オイストラフ親子とか、スターンとメニューインとか、それこそいろんなペアで演奏されますが、それぞれ違った味わいでもしろうく、またバッハの書法の巧みさと清澄な表現は、まことに驚嘆に価するものです。

バッハをあまり知らない人でも、今日この曲をきいたら、きっとバッハが大好きになることでしょう。(Vn 守屋)

❖ 交響曲第38番 二長調 K 504〈プラーハ〉 モーツァルト

この曲は最後の3大交響曲の1年半前、1786年12月6日、さしせまったプラーハへの旅のためにウィーンで作曲された。この年モーツァルトは歌劇「フィガロの結婚」を完成させたが、その反権力的内容のためウィーンでの上演は不幸な結果に終わった。ところが、ボヘミアの首都プラーハで上演されるやいなや圧倒的人気を博し、招待されてこの交響曲を持って訪れた。親友にあてた手紙でこう書いている。「プラーハにきたらやけにぼくら二人を可愛がってくれる。

ここではいたれりつくせりの厚意と名誉をうけている。」この地で1787年1月19日彼自身の手で初演されたので「プラーハ」と呼ばれている。アンリ・ゲオンはこの曲を「偉大にして崇高であり、悲劇的にして快活であり、繊細にして力強い曲である。」と評しているが、それだけに演奏は難しい。後期の作品の中では唯一「メヌエットのない」交響曲であるが、「言うべきことが三楽章ですべて言い尽くされているから……」である。(Fg 稲田)

❖ ピアノ協奏曲第20番 二短調 K 466 モーツァルト

この曲はモーツァルトが29才(1785年)の時ウィーンで作曲し、今日では「戴冠式」とともに有名な曲です。

この協奏曲は、ピアノを伴った交響曲であり、ずっけりとした内容を表現して、ロマンティックな情感に独特の味わいを見せ、あの「40番」のシンフォニーとともに古くから愛されてきたと同時に、ピアノ協奏曲の歴史上近代協奏曲へ

の決定的な転換を示すものといえます。

それにしてもモーツァルトはどうしてこんなに演奏し難いのでしょうか。やはり我々はまだ天才の域に足を踏みこめられないのでしょうか。そんなことを思いつつすばらしい深沢さんの伴奏ができる喜びに胸おどらせて、天才に少しでも近づこう練習に励むのでした。

(Vn 森田)

出演者紹介



深沢 亮子 RYOKO FUKAZAWA
(ピアノ)

3才より両親からピアノの手ほどきを受ける。10才で永井進氏に師事、12才で全日本学生音楽コンクール第一位。15才には毎日新聞社、NHK共催第22回音楽コンクールで首位受賞。初のリサイタルを山葉ホールにて催す。

17才でウィーン国立音楽院に留学、グレーテ・ヒンターホーファー教授に師事。1959年同校を首席で卒業後、ドイツ、ベルギー、北欧へ演奏旅行。ウィーン、グラーツなどオーストリア各地でリサイタルやオーケストラとの協演にて成功を取める。1961年ジュネーブ国際音楽コンクールで1位なしの2位入賞。帰国までの間リサイタルを始め数々の演奏会、放送、TVで活躍、その後何度かの渡欧の際にウィーン、ザルツブルグを始めフランス、スイス、イタリア、ハンガリー等のヨーロッパの諸都市で演奏、グヴァドリ、ヴァールベルグ、マタチッチ、メルツェンドルファー、クロプチャー、ヘーガー、マツェラート等の指揮者と協演、ヴィンナー・オクテットやフィルハーモニア・カルテットと室内楽協演等、国際的な舞台で活躍。

日本ではN響、東響、日フィル、読響、東フィル、大フィル、札響等との協演を始め、NHKや各民間放送局のラジオ、テレビへの出演、全国各地で活発な演奏活動を行う他、ビクター、コロムビア、東芝、CBSソニーでのレコーディング。音楽之友社からは続「ピアノの日記」「ウィーン日記」の著書を出版するなど極めて他方面にわたる活躍をしている。



菊池 東 TO KIKUCHI
(指揮)

玉島に生まれる。5才の時からヴァイオリンを始め、大学2年生の時学生オーケで初めて棒を振りその後指揮者としてクラブ活動を続けた。東京のムチカ合奏団のトレーナーを経てS48年帰岡。S49年倉敷室内管弦楽団を仲間と共に結成。以来同楽団の指揮者として活躍中。その間ヴァイオリンを福田淑子、田中敬諸氏に、指揮を柗本辰郎、早川正昭諸氏に師事。

又広島交響楽団、東京都民交響楽団、モーツァルト室内管弦楽団等でオーケを経験。倉敷音楽協会等で室内楽の演奏活動を続けている。広島大学工学部卒。倉敷音楽協会理事。

守屋 美枝子 MIEKO MORIYA
(ヴァイオリン)

倉敷に生まれる。東京芸大附属高校を経て芸大器楽科卒業。多久興、林龍作、ウィルフリードハンチ諸氏に師事。卒業後津山、岡山、倉敷においてリサイタルを開く。現在作陽音大講師、岡大非常勤講師。フローエ・ムジカテン、岡山現代日本音楽の会所属。昭和51年より倉敷室内管弦楽団コンサートマスター。

中川 衛子 EIKO NAKAGAWA
(ヴァイオリン)

宇部に生まれる。中学1年のとき岡山に移転。東京芸大附属高校を経て芸大器楽科卒業。秋吉光恵、多久興、鷺見三郎諸氏に師事。卒業後2年間東京交響楽団に在籍後帰岡、倉敷室内管弦楽団発足以来本年まで同楽団のコンサートマスター。

楽団プロフィール

倉敷室内管弦楽団は、文化都市倉敷市にふさわしいバロック音楽の演奏を主とするユニークな楽団として、昭和49年12月に誕生しました。団員は教員、会社員、主婦、学生など倉敷市および近郊在住の音楽愛好家ですが、発足以来メキメキと腕を上げ、今では県下を代表する楽団になっています。

毎年度1回の定期演奏会を開くほか、昨年9月フルートの世界的巨匠ランバル氏との共演で大成功をおさめたのはじめ、今年に入ってから1月—第3回定期、2月—一声の会共演（オ

ーボエ、ファゴット協奏曲の夕べ於岡山市民文化ホール）7月—大原総一郎追悼演奏会にてモーツァルト「レクイエム」、9月—全団員が内輪でそれぞれ室内楽を演奏し楽しんだ団内演奏会、10月—モダンダンスと音楽の為の愛像（新作）出演、11月—ゴールドブレンドコンサートで映画音楽集ポップスにとりくむ。そして今年の総決算といえる第4回定期と、実に多彩な演奏活動を展開、その高度な技術と美しい音楽の創造には定評があり、これからの活躍が期待されています。

主な演奏記録

● 第1回定期演奏会（S 50.12.8）

ヘンデル 合奏協奏曲OP 6—10
ヴィヴァルディ 協奏曲集「四季」より春夏秋冬
バッハ カンタータ BWV 202
いまぞ去れ悲しみの影よ、
ブランデルブルグ協奏曲第4番
小山清茂 弦楽の為のアイヌの歌
指揮 / 菊地 東

● 第2回定期演奏会（S 51.11.16）

ヴィヴァルディ 2つのトランペットの為の協奏曲
バッハ ブランデンブルグ協奏曲第1番
レスピーギ リュートの為の古代舞曲とアリア第3組曲
ボッケリーニ チェロ協奏曲変ロ長調
指揮 / 早川 正昭
チェロ / 山崎 伸子

● ランバルと管弦楽の夕べ（S 52.9.24）

テレマン フルート協奏曲ニ長調
モーツァルト フルート協奏曲第1番その他
指揮 / 早川 正昭
フルート / ジャン・ピエール・ランバル

● 第3回定期演奏会（S 53.1.8）

ヘンデル 水上の音楽（ハレ版）
モーツァルト ヴァイオリン協奏曲第3番
ドボルザーク 弦楽セレナーデホ長調
指揮 / フォルカー・レニック
ヴァイオリン / 和波 孝禧

● ゴールドブレンドコンサート（S 53.11.3）

ウエストサイド物語・序曲
ロッキーのテーマ
スターウォーズのテーマ
フィリング・アラモ
マイウェイ 他
指揮 / 石丸 寛
ゲスト / 雪村いづみ



ランバルと共に



声の会より



ゴールドブレンドコンサートより

倉敷室内管弦楽団

団 長 : 小 山 裕 章
 運営委員長 : 田 辺 幹 夫
 顧問 : 枡 本 辰 郎

指揮者 : 菊 地 東
 コンサート : 守 屋 美 枝 子
 マスター : 中 川 衛 子

Ist Violins : 守 屋 美 枝 子
 中 川 衛 子
 佐 藤 真 理 子
 茂 成 陽 子
 坂 本 惠 理
 中 桐 佐 知 子
 松 田 敏 彦
 越 宗 宣 子
 渡 部 幸 子
 向 井 詳 興

2nd Violins : 森 田 真 理 子
 安 藤 律 子
 黒 住 晃 代 彦
 陶 山 靖 彦
 友 野 良 一
 綾 野 め ぐ み
 池 上 宣 子
 大 塚 佳 子
 奈 留 純 子
 高 橋 久 子
 板 橋 啓 子
 宮 垣 節

Violas : 黒 住 彰 夫
 中 野 隆 重
 室 孝 明
 水 田 圭 子
 谷 本 道 代
 中 藤 延 代
 桂 修 治

Violoncellos : 枡 本 辰 郎
 田 辺 幹 夫
 宇 野 義 雄
 大 森 陽 子
 森 田 真 弓
 西 村 洋 子
 井 上 敏 計
 中 野 啓 子

Contrabasses : 森 田 博 之
 安 田 友 子
 藤 井 正 勝
 松 本 高 広

Cembalo : 磯 田 道 代

Flutes : 岡 野 純 子
 森 本 悦 子

Oboes : 有 道 惇 子
 大 槻 節 子

Fagots : 稲 田 裕 彦
 太 田 匡 紀

Horns : 吉 市 幹 雄
 西 崎 大 修

Trumpets : 森 田 裕 三
 岡 本 卓 也
 中 桐 実

Tim : 西 岡 啓 治



倉敷市自主文化事業協会シンボルマーク

倉敷市自主文化事業協会は、営利を目的としないで文化サービスを提供する公益任意団体です。協会はすぐれた舞台芸術および催物等を企画公演して、芸術鑑賞、芸術・文化活動の促進をはかっておりますが、一般の認識と理解を深めるため昭和51年6月「シンボルマーク」を募集しましたところ、全国から312点に及ぶ多数の作品が寄せられ、慎重な選考のすえ、左のようにきまりました。協会が行なう諸事業、印刷物等にこのマークを使用しておりますから、いっそうのご協力をお願いします。

文化を表わす「b」をフレッシュに図案化し、自主文化事業のユニークな企画と内容を端的にシンボライズしたもの

倉敷市自主文化事業協会

倉敷市民会館内
TEL 25-1515